

令和5年度 自己評価・学校関係評価報告書

令和 6年 3月 8日

学校法人 頌徳学園 三和幼稚園

1.本園の教育目標

- ・生きる力（自ら判断し実行する力）などの基礎を育み 豊かな心を培う
元気で明るくのびのびした子ども
情操豊かな子ども
友達と遊べる子 を柱として、よく見てよく聞いてよく考える子の育成

2.本年度の重点目標

- ・職員の資質向上と幼児への理解
- ・安全・安心な教育活動

3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	幼児の姿や遊びを教職員が定期的に話し合い、ねらいや内容の見直しを行った
2	教職員の子ども達への共通理解	B	子どもとの関りの中で保育者が困ったことまた嬉しかったことを語り共に理解を共有しあった。その結果、他のクラスの子どもにも目を向けクラスで抱え込まずに教職員で見ていく方向になりつつある。
3	園内研修	A	公開保育を行い、保育の動きや声掛けを他の教職員から学んだ。また新しい試みとして、異学年のクラスと担任を交換して現在の成長段階を知り、クラスに反映させていった。
4	安心・安全な園生活とは	B	危機管理マニュアルをみんなで読みあい、教職員同士が認識していった。バスでは置きざり防止の設置、バスマニュアルを使用して実践をしていった。園庭を見回すことで必要・不要、整理整頓の見直し。遊具点

評価（A...十分に成果があった B...成果があった C...少し成果があった D...成果があった）

4.総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目に重点的に取り組んだ結果、クラスの子ども達だけでなく、他の学年クラスの子ども達を知ること、発達に応じた幼児を大切にした教育を実践することができた。またさらなる質の向上に向けた課題も明確になった。 バスの置き去り防止装置の設置はしたが、決してそれで安全とは限らない。日頃の職員同士の伝達報告の徹底を再認識した1年であった。また能登地震により綿密な訓練や役割分担などの課題もみえてきた

5.今後取り組む課題

	課題	
	職員の資質向上（園内研修における効果的な研修）	教育要領を読みあい、日常の子どもの姿はどの項目なのかを知り、一人一人に合った援助を心掛け、教職員の視野を広げ、学びの場を作っていく
	安全管理	緊急事態に備えて、マニュアル等を共通理解し自分の役割を知り実際行動に出られるように身に着くよう意識して行う。
	子ども達の自己肯定感の育み	子どもの権利条約の4つの原則のひとつ、「意見を表す権利」子どもの権利を尊重するためにまず、子どもの声（思い）を受け止めること。自己肯定感を育むこと。子どもの権利...こどもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできること等

学校関係者評価

・園の方針でもある「よく見てよく聞いてよく考える」子をモットーに指導してくれている。また友達といることが好きだったり、先生のことを好きだったりしながら、人間関係を学び、総合的にみて幼児期にとって大切な部分を育ててくれた。今後も期待して成長を確認していきたい。

令和6年 3月 8日

設置者：学校法人 頌徳学園

理事長： 金原 順

